三重県
1人1台端末
利活用方針

さらなる利活用の活性化に向けて

令和7年

三重県 GIGA スクール構想推進協議会

三重県のめざす姿

子どもたちが個性を輝かせ、望む未来を実現していくために

本リーフレットの活用に対する思い

三重県では、令和6年3月、「三重県教育ビジョン」を策定し、子どもたちに育みたい力として、「自立する力」「共生する力」「創造する力」の3つを掲げました。
本リーフレットでは、このビジョンの実現に向けて、1人1台端末の利活用がどのように子どもたちの学びを支え、自己肯定感を育むかを具体的に示しています。
1人1台端末は単なる道具にとどまらず、子どもたちが自ら考え、仲間と協働し、新しい価値を創造していく姿を支え、学びの可能性を広げる「窓」となります。
また、教職員の校務の負担軽減、教育の質の向上を目指しています。先生方の日々の実践において、端末活用のヒントやアイデアとして本リーフレットをお役立てください。

GIGAスクール構想第２期における三重県がめざす子どもの学びの姿

自立する力
主体的な学び

自ら定める目標の実現に向けて、学ぶ内容や学ぶ方法を自己決定するとともに、学びの状況を振り返りながら自己調整し、改善を行いつつ学び続けていく子どもの姿

共生する力
時間・距離を超えた協働

自他のかけがえのない価値を理解・尊重するとともに、自己肯定感を高め、価値観や文化の多様性を認め合い、いつでもどこでもだれとでもつながりながら、相互の学びや考えを参照し、他者と共生する子どもの姿

多様な環境や特性に応じた学びを通して、
これからの時代を生きていくための基礎となる力を身につけた子ども
～ 誰一人取り残すことのない、学びの実現 ～

Well-being の実現
自己肯定感の涵養

多様な学びの実現に向け、学校及び家庭や地域においても、情報を収集・整理・分析し、感性豊かに創造・表現・発信する子どもの姿

創造する力
新たな価値の創造

学習での活用はこちら ▶

GIGAスクール構想のこれまでと今後

三重県 GIGA スクール構想第1期（令和元年度から５年度）の 成果 と 課題

成果

GIGAスクール構想と端末整備の進展

１人１台端末の整備が進み、コロナ禍でも遠隔授業や動画配信などで学びが継続され、事例集も作成されました。また、子どもの自己肯定感の涵養につながる授業改善も見られました。

授業での活用と教職員の研修

端末は調べ学習や協働学習などに活用され、先進的な授業事例も創出されました。市町や県では教職員向けにICT活用研修を実施し、授業の質向上と好事例の共有が進められました。

デジタル教科書と家庭活用

令和5年度に英語のデジタル教科書が全校導入され、算数・数学でも活用が広がりました。また、家庭での端末利用も進み、小中学校ともに9割以上が持ち帰りを許可しています。

子どもの抱える悩みや不登校への対応

県はSNS相談窓口を設置し、子どもの悩みの早期発見・解決を支援しています。不登校の子どもには、自宅や支援センターで１人１台端末を活用した個別指導や学習支援等を行い、学びの保障を図っています。

課題

端末活用と学びの質向上

１人１台端末の活用が進む中、協働学習やアウトプット活動に学校間の差があります。生成AIの活用も含め、実践事例の蓄積・共有、教職員の更なる指導力向上が求められます。

ネット環境と健康面の課題

ネットワーク環境が不十分なことにより、授業に支障が出ることがあります。また、健康面では視力低下や生活習慣の乱れなどの懸念があり、学校と家庭の連携が大切です。

情報モラル教育と家庭連携

誹謗中傷やネット依存などの課題が深刻化しており、情報モラル教育の強化が求められます。私有端末の扱いには家庭の協力が不可欠です。

校務DXとクラウド活用

校務処理ができる端末が職員室に限定されているため、学習に関するデータと校務に関するデータの連携ができない状況が見られます。クラウドを活用した校務DXの推進が求められます。

GIGA スクール構想第2期計画

子ども・保護者の立場から

誰もが
- 特性や得意、自分の「好き」にあわせて自己調整して学べる
- 生涯にわたって、自分の学びの状況を把握できる

いつでも
- 学びたいときに学びたい内容を学べる

どこからでも
- 学校でない場所からでも学べる

誰とでも
- 専門家とつながる
- 同じ目標の仲間と学べる

自分らしく学べる
- 自らの意思でデータを共有して適切なサポートを受けられる
- 就職や留学の際に自分の学びを証明して、自己実現できる

教職員の立場から

学習指導・生徒指導
- 一人ひとりの状況が把握でき個々に応じた指導ができる
- データに基づいて子どもの見取り・評価や関係者への説明ができる
- 外部機関も含めて担任以外も情報を適切に管理し共有することでチームとしての支援が可能に

指導の計画・授業準備
- 個々の子どもに適した教材が見つかる
- 異動に関係なく教職員在職期間中の記録を蓄積できる

学級・学校経営
- 学級・学校全体の状況が把握できる
- 取組の効果が分かる・改善できる

校務の負担軽減・効率化
- 自動転記・集計により、入力が一度きりとなり、事務手続・調査等の負担軽減・効率化
- 保護者との連絡が楽に
- テレワークによる業務を可能に

情報交換のプラットフォーム
- 学校・地域を越えて情報共有が可能に

◀ 校務での活用はこちら

学習における活用

自立する力 共生する力 創造する力 を育むための学習場面

1人1台端末を活用しながら3つの力を育みましょう。

個別最適な学び

「個別最適な学び」は「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されます。
例えば、「指導の個別化」ではスタディ・ログやライフログを活用したり、「みえスタディ・チェック」の結果に応じた問題に取り組んだり、「学習の個性化」では、興味に応じて端末で情報収集やレポート作成を行い、深い学びにつなげます。

自立 創造

課題解決に向けた協働的な学び

「個別最適な学び」に加え、「協働的な学び」を通して、仲間と考えを共有し、深い学びを実現します。
例えば、探究的な学習において、1人1台端末を活用して収集・整理した地域課題に関する情報をクラウド上で共有・共同編集し、解決策を話し合うことで、多様な視点から新たな気づきを得るなど、学びを深める活動が挙げられます。

共生

時間・距離

学

1人1台端末を使う
場所にとらわれずに
例えば、近隣の学校
を通して、多様な学
きます。
また、遠くの専門家
流することで、異文
な視点が育ちます。

自立 共生

誰もが安心して学べる教育のために1人1台端末を活用しまし

特別な支援を必要とする子どもの学び

1人1台端末を活用することで、学習・生活上の困難さを改善することができます。
例えば、読み書きに困難を抱える子どもは、音声入力や読み上げ機能を使って作文を書いたり、文章を理解したりすることができます。
また、見ることに困難のある子どもは、フォーカス機能やナビゲート機能などを活用することで、学習の効果を高めることができます。

自立 共生

日本語の指導が必要な子どもの学び

日本語を母国語としない子どもには、一人ひとりに合った支援が大切です。
例えば、翻訳アプリを使って先生の説明や指示を確認したり、オンライン授業で母語を共有したりしながら学ぶ活動が挙げられます。また、同じ立場の子ども同士の交流も学習意欲を高めます。こうした学びは多文化共生の促進にもつながります。

自立 共生

不登校の子

不登校の子どもには
ぶなど、実情に応じた
います。保護者と連
的な学習を組み合わ
にすることや取り組
ことも可能です。
例えば、オンライン
り、自分のペースで
て学ぶ活動などが挙

自立 共生

三重県がめざす子どもの学びの姿

多様な環境や特性に応じた学びを通して、
これからの時代を生きていくための基礎となる力を身につけた子ども

～ 誰一人取り残すことのない、学びの実現 ～

自立する力
主体的な学び

共生する力
時間・距離を超えた協働

創造する力
新たな価値の創造

離を超えた
学び

ることにより、時間や
学ぶことができます。
とのオンライン交流
びを深める活動がで

や海外の学校とも交
化理解やグローバル

新たな価値を創造し、表現・発信する学び

社会の変化に対応するには、教科書の内容などとさまざまな情報を結びつけて自分の意見を発信する力が大切です。
１人１台端末を使って協働しながらアイデアを出し合い、プレゼンや動画で発信することでも、創造力や表現力が育ちます。
例えば、総合的な学習の時間に、地域の歴史をテーマにしたドキュメンタリーを制作し、発表する活動などが考えられます。

創造

子どもの発想による新たな活用方法を用いた学び

子どもが自分で端末の使い方を考え、工夫して学びに活かすことが大切です。
プログラミングやデジタルアート、生成AIで創造力や課題解決力を育てます。特に生成AIの活用では、課題設定やプロンプトの作成、結果のファクトチェックが大切で、知識理解や批判的思考の育成が求められます。
例えば、分からない問題をAIに解説してもらったり、苦手な教科の練習問題を作成し取り組んだりするなど、学習に役立てます。

創造

よう。

子どもの学び

、学校以外の場所で学
た配慮が必要とされて
携し、対面指導や計画
せることで、出席扱い
組んだ内容を評価する

授業で先生とつなが
動画教材などを利用し
げられます。

病気療養により通学できない子どもの学び

病気で学校に通えない子どもも、１人１台端末を使うことで自宅や療養施設などで学べます。
オンラインで教室とつながることで、学習だけでなく、授業外の活動でも交流ができます。保護者と連携し、定期的な訪問や動画の視聴等の計画的な学習を組み合わせることで、出席扱いにすることや取り組んだ内容を評価することも可能です。
例えば、オンデマンド授業に参加したり、ビデオ通話を活用して友達と協力しながら課題に取り組んだりする活動が挙げられます。

自立　共生

「働き方（校務等）」における活用

01

子どもの出欠、健康状態、成績等の把握における活用

１人１台端末やクラウドを活用することで、出欠や健康状態、成績、学習履歴などを効率的に把握・共有でき、教職員の負担を軽減します。また、子どもの心の状態を知ることにより、きめ細やかな支援も可能になります。同時に情報管理やセキュリティ対策も重要となります。

02

会議や研修会等における活用

クラウドや共同編集機能を利用することで、会議資料の事前共有や意見交換がスムーズになり、在宅勤務中でも参加しやすくなります。さらに、授業の相互参観やデータの活用によって、研修の質の向上や若手教職員の育成が期待されます。

03

各種アンケートにおける活用

クラウドツールを活用したアンケートでは、印刷や配付、回収にかかる手間やコストを削減でき、集計も自動化されて視覚的に把握しやすくなります。さらに、学習や健康データと連携することで、個別指導の質の向上が期待されます。

04

保護者との連絡における活用

学校だよりのデジタル化や連絡アプリの利用により、保護者は学校の情報をリアルタイムで確認でき、学校は保護者の協力を得やすくなります。さらにオンライン面談の導入により参加形態が多様化し、双方の負担軽減が見込まれます。

05

非常時、災害時の活用

アンケートや掲示板機能を利用することで、災害時の安否確認や連絡がスムーズに行えます。さらに、端末やクラウドの活用により、学習や業務の継続が可能となり、非常時にも柔軟な対応が可能となります。

06

クラウドを活用した教職員同士の教材等の共有

教職員同士がクラウドを利用して教材や指導方法を共有することで、授業準備の効率化や指導力の向上、また同僚間の連携強化が期待されます。具体的には、MEXCBT（メクビット）[※1]などのツールを活用することで、情報の共有が円滑になり、教育の質の向上につながります。

※1「MEXT（文部科学省）」+「CBT（Computer Based Testing）」で、子どもがオンラインで問題演習や学力調査を行える公的プラットフォーム。

1人1台端末を利活用する上での留意点

情報活用能力の育成

基本操作の習得
タブレットPCの基本的な使い方（電源の入れ方、ファイルの保存・整理など）を身につける。

タイピングスキルの向上
正確かつ迅速なタイピング能力を身につける（CBT化への対応）。

プログラミング的思考の育成
論理的に考え、問題を分析・解決する力を身につける。

情報モラルの理解と実践
SNSの使い方、ネット上のマナー、誤情報やフェイクニュースへの対応などを学び、適切な行動ができる力を身につける。

情報セキュリティの意識の向上
パスワード管理や個人情報の取り扱いなど、情報を安全に扱うための知識と態度を身につける。

情報の収集・整理・発信・共有のスキル
必要な情報を見つけ、適切に整理し、目的に応じて発信・共有する力を身につける。

多様なメディアリテラシーの育成
テキスト、画像、動画など、さまざまなメディアを適切に読み解き、判断、活用する力を身につける。

生成AI

生成AIの教育的活用の可能性
議論の深化：グループで議論やまとめた内容に不足している視点を補い、議論をさらに深めることが可能。
学習効果の向上：対話型AIを使った英会話の練習や振り返りへの助言等、個別最適化された支援やフィードバックにより、高い学習効果が期待。

活用に必要なスキルの習得
仕組みの理解：生成AIの仕組みや特徴についての理解を深める。
発達段階に応じた活用：年齢や発達段階に応じて、適切な使い方を身につける。
情報リテラシーの育成：生成AIが出力する情報の真偽を見極める力を身につける。

リスクとその対策
個人情報の流出：入力内容（プロンプト）に個人情報を含めないよう、留意して活用。
著作権侵害の懸念：著作権を尊重し、第三者の権利を侵害しないよう、留意して活用。
偽情報の拡散：誤情報や不正確な内容が含まれる可能性があるため、批判的思考力を働かせ、ファクトチェックを行うことが重要。

安全かつ適切な活用のために
文部科学省のガイドラインの遵守：教育現場でのAI活用に関する国の方針に基づいて活用。
所属組織の方針の確認：自治体・学校ごとのルールや指針に基づいて活用。
遵守事項と留意点：利用するサービスの規約や条件を守り、情報セキュリティの確保、個人情報やプライバシー、著作権の保護、さらに公平性や透明性にも配慮して活用。

心身の健康管理

健康への影響と対策
健康リスクへの懸念：長時間の使用による視力低下やドライアイ、心身の疲労への影響に配慮。
健康管理能力の育成：家庭と連携しながら、ICT機器を使う際の約束ごとは子どもたちが自ら作成し、自己管理力を身につける。
「タブレットを使う時の5つの約束」の実践：　出典：文部科学省「端末利用に当たっての児童生徒の健康への配慮等に関する啓発リーフレット」より

- タブレットを使うときは姿勢よく
- 30分に1回はタブレットから目を離す
- 寝る前にはタブレットは使わない
- 自分の目を大切にする
- ルールを守って使う

セキュリティ

端末の適切な取り扱い
1人1台端末の使用の目的：学習活動のために貸与されているものであり、使用の目的を正しく理解した上で活用することが大切。
管理能力の育成：授業中や持ち運びの際は、落下・水濡れ・充電切れに注意するなど、適切に管理する能力を身につける。

情報セキュリティとID管理
情報漏洩のリスク：不用意な操作や共有により、個人情報や学習データが流出する可能性に注意。
ID・パスワードの管理：他人に教えない、書き残さないなどの適切な使い方や管理方法を身につける。

活用に向けたヒント

１人１台端末の利活用事例集

三重県内の公立小中学校の実践を中心に、学習や校務で役立つ活用事例を教職員向けにまとめました。授業の質を高めたり、日々の業務をスムーズにしたりするヒントがたくさん詰まっています。すぐに現場で使える内容ばかりですので、ぜひご活用ください。

ここからアクセス!

三重県学校DX推進支援事業事例サイト

【学習における活用】

3つの力を育む学びの姿と１人１台端末の利活用

- ①個別最適な学び（自立）（創造）
- ②課題解決に向けた協働的な学び（共生）
- ③時間・距離を超えた学び（自立）（共生）
- ④新たな価値を創造し、表現・発信する学び（創造）
- ⑤子どもの発想による新たな活用方法を用いた学び（創造）
- ⑥特別な支援を必要とする子どもの学び（自立）（共生）
- ⑦日本語の指導が必要な子どもの学び（自立）（共生）
- ⑧不登校の子どもの学び（自立）（共生）
- ⑨病気療養により通学できない子どもの学び（自立）（共生）

１人１台端末を利活用する際の留意事項

- ⑩情報活用能力の育成
- ⑪生成AI
- ⑫心身の健康管理
- ⑬１人１台端末の適切な管理

【校務における活用】

- ①子どもの出欠、健康状態、成績等の把握における活用
- ②会議や研修会等における活用
- ③各種アンケートにおける活用
- ④保護者との連絡における活用
- ⑤非常時、災害時の活用
- ⑥クラウドを活用した教職員同士の教材等の共有

リンク集

- 三重県 １人１台端末利活用方針（三重県 GIGA スクール構想推進協議会）
- みえの学力向上県民運動（三重県）
- 教育の情報化・GIGAスクール構想の推進（文部科学省）
- 教育DX ロードマップ（デジタル庁）
- ICTリテラシー向上に向けた関連施策等（総務省）
- 未来の教室（経済産業省）
- サポートマガジン『みるみる』（文部科学省）
- リーディングDXスクール指定校実践事例・動画（文部科学省）
- StuDX Style（文部科学省）
- GIGAスクール構想をAppleと（Apple）
- Google for Education 活用ライブラリ（Google）
- Microsoft Educationの最新ガイド（Microsoft）

三重県教育委員会事務局　小中学校教育課　小中学校教育班

〒514-8570　津市広明町13番地
電話番号：059-224-2963　　メールアドレス：gakokyo@pref.mie.lg.jp

「みえびぃ」
三重県教育委員会
マスコットキャラクター